

# 新しい時代の商品づくりの考え方



有限会社オフィスイマダ

代表取締役 今田 功氏

いさお

7月12日、全国各地の伝統工芸品等について、現在のライフスタイルに即した商品開発や販売促進の方法等をプロデュースされ、また、東京ドームで開催される「テーブルウェア・フェスティバル」の総合プロデューサーを務めておられる今田功氏を講師に迎え、工芸品の新たな可能性や、他産地の商品開発の取組等についてご講演いただきましたので、その要旨を紹介いたします。

## トレンドリーダーは女性 ～女性トレンドと ライフスタイル～

今のトレンドリーダーは女性です。第1回テーブルウェア・フェスティバルから19年間に何を一番勉強したかという点、女性の行動、買物動向、生活動向です。4～5年前から、女性のモノに対する価値観が非常に変わり、その志向は「企業ブラン

ド」から商品そのものに魅力を求める「商品ブランド」に移行し、個性化現象が始まっています。また、女性のライフスタイルが多様化し、器もインテリアも生活環境の変化によって着替えるようになりました。以前は海外ブランドを好んでいましたが、最近では、素敵な生き方をしている人が持つものに憧れたり、華美なものではなくても、一つ一

つ丁寧な作られたもの、技術は高くなくても一生懸命作ったものに共感して購入しています。モノを購入するときの感覚

は、男性は年代そのままの感覚ですが、女性は10歳以上若い感覚とエネルギーと感性を持っているので、女性の年齢意識を分析しておく必要があります。

## 生活環境の変化

インテリアに対する意識も変化し、畳のない生活様式に変わってきているので、今のままの商品でよいのかを考えなければなりません。ただし、全て洋に変わったのではなく、「和のテイストなのにちよつと洋のにおいがする」「洋のテイストなのにちよつと和のにおいがする」という「和洋共生」です。

例えば、テーブルウェア・フェスティバル会場で、マンションであっても似合う生活シーンの提案をしていたため、漆器とガラスの食器をセッティングした「和洋共生の空間」作りを輪島塗の奥

## テーブルウェア・フェスティバルとは

今年2月に東京ドームで開催された「テーブルウェア・フェスティバル」暮らしを彩る器展覧」は、19回を迎え、12カ国、250社、約13万点もの商品が展示され、9日間で約30万人が来場されました。来場者の9割が女性で、日本の焼物、漆器、ガラスを軸に、ほとんどが購入できる商品を扱い、見せ方、生活シーンの提案を行っています。入場料2,000円。

今回、本県も初めて出店し、白薩摩の絵付けや薩摩切子は、多くの来場者から注目されました。また、来年の20周年企画において、薩摩焼と薩摩切子を中心に本県の工芸品を紹介するコーナーが設けられる予定です。



多くの来場者で賑わう「鹿児島県工芸品」コーナー

様にいただきました。



和洋共生のテーブルセッティングの例(輪島塗)

また、お正月にしか使わないお重をいつでも使えるように、蒔絵、沈金をあえて入れないモダンなデザインで作り、奥様のご自身の発案で、季節を問わず洋風・和風の料理を実際にお重に盛り付けた写真をお重を購入されたお客様から送っていただき、使い方の提案として売り場に提示しています。そうすることで何十万円もするお重が売れているのです。

## 今後の戦略と戦術の考え方

企業方針を新たに見直し、自

分なりの小さな夢を創ってください。何を提案し、どんなものを喜んでもらいたいか、共感してもらえる自分なりの小さな宣言をしてください。

それから、現況商品の分析と見直しをしてください。過去の商品が悪いわけではありません。今の時代には何を改良すればいいのか、何を添えればいいのか、何を引き算すればいいのか、どういう形で変更したらいいのかを見直してください。ゼロから始めないで、むしろヒントになるものを無視しないでください。気がついたときが始めです。自分が作りたと思うものは、成功率が高いです。ただし、1回や2回の失敗は当たり前、5回以上チャレンジしてから失敗と言ってください。今、波佐見焼でそれなりの商品ができましたが、4年かかりました。何回も何回も手直しして、ようやく商品です。今の時代、そのくらいチャレンジしなければ、いいものではありません。

また、異業種との交流を積極的に深めてください。異業種交流でよその世界を感じることに

で、自分が何にトライできるか、何をしなければならぬかを見つけてください。

## 最後に

世の中が大きく変わろうとしています。「自分の目で見たい」「自分の手で触りたい」「できることなら作り手と交流して購入したい」という時代が始まるうとしています。鹿児島に対する魅力をみんなの力で引っ張り出していただきたい。テーブルウェア・フェスティバルのお客様は旅行が大好きで、工芸品で現地を訪ねていきます。新幹線も開業しました。いよいよ打って出る鹿児島時代が始まりました。急がないで一步一步前に進み、それをかみしめながら次の世代にリレーして行くことが大事です。鹿児島が出来ることによって、日本が、工芸が変わるような予感がしております。一緒に鹿児島を盛り上げていきたいと思えます。

## ◆今田功氏プロフィール◆

昭和19年山口県生まれ。(株)読売広告社にて、スペースデザイン、セールスプロモーション企画、自治体等の文化イベント企画・運営等に従事。平成16年11月、(有)オフィスイマダを設立。青森県の津軽塗や産地工芸開発のアドバイザー、九州山口陶磁展審査員、ノリタケ・テーブルウェアのコンサルタント、平成4年よりテーブルウェア・フェスティバルの総合プロデューサーとして全国各地の工芸品の商品開発を支援するほか、各企業のコンサルタントとして活躍中。



熱心にアドバイスいただいた個別相談会